

## 刊行のことば



兵庫県歯科医師会長  
村井俊郎

平成7年1月17日未明、戦後最大の震度7の大都市直下型地震が兵庫県南部に発生した。後に阪神・淡路大震災と名づけられたが、死者5,500余名、30数万人が避難所で暮らすという大災害となった。兵庫県の歯科医療機関の数は約2500で、うち被災地域の数は約1,700である。これら被災地域の歯科医療機関の中で全半壊または修復できない被害を受けたものが490、修復可能な被害を受けたものが970であったから、約1,500となり、90パーセント近くの歯科医療機関が被災したわけである。このような状況の中で県歯科医師会としては直ちに災害対策本部を設置して、対内、対外の両対策に乗り出した。まず対内対策としては被災会員の救済について日歯、県歯の両共済組織を通じて可能最大限の共済金の給付を速やかに実行するとともに、復興のための資金融資について県歯協同組合によって無担保低利の自己融資を行うとともに、市中銀行によるあっせん融資、政府金融機関による公的融資、更に政府、自民党に対して特別措置による公的援助等の要請を行った。対外対策としては避難所に居住の約30万人を超える住民の方々に対する緊急歯科医療の実施、5,500名にのぼる死亡された方々のうち身元不明遺体の個体識別を行うための緊急出動等、あの混乱の中で県歯八会の組織力を動員して処理に当たった。これらの間の記録と将来への指針として一巻にまとめたのが本書である。制作に当ってご苦勞頂いた関係者の方々に深く感謝して刊行のことばとします。

平成8年1月